

2004年(平成16年)6月6日(日曜日)

千葉2 地域

里地里山保全
活動コンテスト

県内2団体を表彰

里地里山を守る活動に取り組み団体を顕彰する「日本の里地里山30 保全活動コンテスト」(主催・読売新聞社、共催・環境省)で顕彰を受ける全国の三十団体が決まり、本県では、「県立茂原農業高農業土木部」(茂原市)と「桜宮自然公園をつくる会」(多古町)の二団体が選ばれた。喜びの声を聞いた。

県立茂原農高農業土木部

荒れ地開墾、水田に再生

三十年間も耕作が行われていなかった一宮町御堂谷の荒れ地約四千三百平方メートルを開墾し、「谷津田」と呼ばれる谷間の水田に再生させた。
「開墾は大変だったが、活動が認められてうれし」と小高大介部長(三年)は喜ぶ。



谷津田再生を目指し、30年間放棄の荒れ地を開墾する農業土木部生徒たち

きっかけは、土地所有者の農業亀崎重男さん(69)(同町一宮)から昨年二月、「復活に力を貸してほしい」と頼まれたこと。顧問の渡辺英二教諭(34)と部員、それにOBらも加わって、週末や夏休みに、やぶと化した農道を切り開き、スコップやクワで荒れ地を開

墾。土砂で埋もれていた水路を修復した。

サンショウウオやカエル、トンボなどの水辺の生き物が生息できる場所を作るため、ため池や水路を造り、稲穂が実り、所有者の亀崎さんとともに収穫した。

渡辺教諭は「明るい里山の復活のために活動を継続します」と話していた。

生き物が生息できる場所を作るため、ため池や水路を造り、稲穂が実り、所有者の亀崎さんとともに収穫した。

渡辺教諭は「明るい里山の復活のために活動を継続します」と話していた。

半年間、ほぼ毎日田んぼと山の草刈りやゴミ拾いを続けた。約三百人のボランティアが町内外から手伝いに来た。現在は月一回の草刈りを行う。四月には復元後三回目の田植えをした。

公園にはメダカやトンボ、ホタルがすみ、渡り鳥が来る里山によみがえった。

佐野さんは「復元に携わってくれた皆さんのおかげ」と顕彰を喜んでた。



谷津田の復元に取り組んだ佐野さん(左)らメンバー

桜宮自然公園をつくる会

地域が協力 谷津田復元

小高い山に囲まれた多古町染井地区では、谷津田を耕作する人が、山の斜面の手入れも担う「あげ」という習慣があった。谷間の草

休耕にすると、農道にゴミが捨てられた。隣接する山には産廃中間処理施設の建設計画が持ち上がった。「里山をゴミの山と化すことなく、後世に残す方法はないか」。会長の佐野豊三さん(79)ら水田の地権者九人は二〇〇一年十一月、約四畝の山の地権者からも同意を得て谷津田復元に乗り出した。一帯を小字にちなんで「桜宮自然公園」と名付けた。

半年間、ほぼ毎日田んぼと山の草刈りやゴミ拾いを続けた。約三百人のボランティアが町内外から手伝いに来た。現在は月一回の草刈りを行う。四月には復元後三回目の田植えをした。

公園にはメダカやトンボ、ホタルがすみ、渡り鳥が来る里山によみがえった。

佐野さんは「復元に携わってくれた皆さんのおかげ」と顕彰を喜んでた。